

分野（ 1 ）気管支ぜん息の発症予防に関する調査研究

研究課題名：①ぜん息発症予防のための客観的評価指標によるスクリーニング基準

申請課題名：ぜん息発症予防のための客観的評価指標によるスクリーニング基準

調査研究代表者氏名：望月 博之

評価コメント

- ・咳に関する研究は興味深い。さらなる研究を期待する。
- ・汎用性の高いソフトの解析及び開発を期待する。また、咳モニター装置の実用検証も進めることを望む。
- ・肺音の診断的価値の改善について、着実に研究は進んでいる。実際の症例に適用して客観的評価指標となりうるかを検証してほしい。
- ・肺音収集手技の工夫と解析ソフトの開発により、多施設での実用化の準備が進められていることは評価される。乳幼児、ことに乳児における喘息診断、評価に用いることが当初の目的と理解しているが、測定に専門性を要することと、機器が高価であることから、測定可能な施設と一般医との病診連携が次の課題となる。
- ・HFIの検討により所期の目的の一つである喘息、非喘息の鑑別に肺音解析が寄与できる。さらに種々の問題点を検討し、肺音解析マニュアルを完成しているが、サンプルは3吸気であり、呼気が特徴である喘息では呼気の検討が必要ではないか？
- ・呼気流速による周波数反応カーブの相似性が著明であるように見える。フラクタル関数としての解析を導入して更に定量的評価が可能になるかを検討する必要があるだろう。
- ・来年度に向けて、呼吸音の解析については、より一般的に用いられる機器や計測法の検討が望まれる。大変貴重な研究であり、完成すると大きなインパクトがあるが、より一般化(多くの方が使用できる)するための方策も考慮してほしい。咳についてもカウンターまでを開発しているが、アンケートが2月からとやや検討が遅れている。
- ・健康とみられる乳幼児から喘息のハイリスク群を呼吸音のみで見つけるのはなかなか困難であると思う。もうひとひねりが必要なのではなかろうか。
- ・健康診査事業で活用することを前提に実用化を図って欲しい。
- ・まだ技術的に克服すべき問題点は多いかもしれないが、実用化できればその臨床的有用性は高いので、頑張って完成させて欲しい。被験者を小児に限らず成人も含めた方が研究しやすいのではないだろうか？